看護情報リテラシー(A, Bクラス) 2単位(春学期)

准教授 宮川 祥子

授業の一般目標:

コンピュータとインターネットを道具として活用するための基礎的技術と、我々をとりまく「情報」を扱うための手法を習得します。この授業では、ICT(情報通信技術)をコミュニケーション・情報獲得・データ表現・情報公開のための道具と位置づけ、看護学を専攻する学生として、また情報社会を生きる一人の人間として、それらを活用するための手法を学びます。この授業はコンピュータを利用した演習を中心としていますが、単にPCの操作方法を学ぶだけではなく、情報を取捨選択するための手法、情報を適切な形式で表現するための手法等、広い意味での「情報」を扱うことのできる能力を身に付けることを目標とします。

看護情報リテラシー(C, Dクラス) 2単位(春学期)

准教授 宮川 祥子

授業の一般目標:

コンピュータとインターネットを道具として活用するための基礎的技術と、我々をとりまく「情報」を扱うための手法を習得します。この授業では、ICT(情報通信技術)をコミュニケーション・情報獲得・データ表現・情報公開のための道具と位置づけ、看護学を専攻する学生として、また情報社会を生きる一人の人間として、それらを活用するための手法を学びます。この授業はコンピュータを利用した演習を中心としていますが、単にPCの操作方法を学ぶだけではなく、情報を取捨選択するための手法、情報を適切な形式で表現するための手法等、広い意味での「情報」を扱うことのできる能力を身に付けることを目標とします。

情報とネットワーク 2単位(春学期)

准教授 宮川 祥子
特任助教(非常勤) 中根 雅文
講師 本間 聡起

授業の一般目標:

私たちの生活では、携帯電話やパソコンなどを通じて、既に日常的にインターネットを使った情報収集やコミュニケーションがなされています。誰もがインターネットにつながる社会は、個人の可能性を伸ばし、誰もが誰かの役に立てる世界を実現してきました。その一方で自分の情報を自分の意図でコントロールしきれないという危険性もはらんでいます。

この科目では、特に看護や医療分野の職業に就くことを前提に、情報のもつ意味と応用についての理解を深めます。われわれの生活を取り巻くさまざまな情報機器、インターネット活用したコミュニケーションの可能性、個人情報やプライバシー、安全性などについて、全体を展望し、ネットワーク社会の中で「生き抜いていくための知識」を身に付け、さらにヘルスケア分野での応用についても概観していきます。

データサイエンス(A, Bクラス) 2単位(秋学期)

教授 鎌倉 光宏
講師(職員) 鈴木 有紀
講師(職員) 長野 裕恵

必ず自分の所属クラスの定められた時限に出席し、毎回、学籍番号、クラス、氏名を明記した演習問題解答等を提出すること。10月22日(土)に補講を行う。10月28日(金)、11月25日(金)、1月20日(金)は休講予定。

授業の一般目標:

本講義では量的および質的なデータ分析の基礎を、理論を理解するとともにコンピュータソフトウェアを活用し、実際に十分の手でデータを作成・整理・分析することを教育目的としている。エビデンスレベルの高い研究の基礎となる数理統計学、衛生統計、疫学、統計ソフトウェアの使用等に関する講義と演習を行う。

データサイエンス(C, Dクラス) 2単位(秋学期)

教授 鎌倉 光宏
講師(職員) 鈴木 有紀
講師(職員) 長野 裕恵

必ず自分の所属クラスの定められた時限に出席し、毎回、学籍番号、クラス、氏名を明記した演習問題解答等を提出すること。10月22日(土)に補講を行う。10月28日(金)、11月25日(金)、1月20日(金)は休講予定。

授業の一般目標:

本講義では量的および質的なデータ分析の基礎を、理論を理解するとともにコンピュータソフトウェアを活用し、実際に十分の手でデータを作成・整理・分析することを教育目的としている。エビデンスレベルの高い研究の基礎となる数理統計学、衛生統計、疫学、統計ソフトウェアの使用等に関する講義と演習を行う。

英語 I A(Dクラス) 1単位(春学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業は産出的言語(スピーキング・ライティング)の活動により、看護に関連するコンセプトや英語スキルを応用することを目的とする。学生は以下の項目を通して、英語のスキルを練習し、磨きをかける。

- 1) スピーキング
- 2) グループ・ディスカッション
- 3) オンラインによるショート・ライティング

英語 I A(Bクラス) 1単位(春学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業は産出的言語(スピーキング・ライティング)の活動により、看護に関連するコンセプトや英語スキルを応用することを目的とする。学生は以下の項目を通して、英語のスキルを練習し、磨きをかける。

- 1) スピーキング
- 2) グループ・ディスカッション
- 3) オンラインによるショート・ライティング

英語 I A(Aクラス) 1単位(春学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業は産出的言語(スピーキング・ライティング)の活動により、看護に関連するコンセプトや英語スキルを応用することを目的とする。学生は以下の項目を通して、英語のスキルを練習し、磨きをかける。

- 1) スピーキング
- 2) グループ・ディスカッション
- 3) オンラインによるショート・ライティング

英語 I A(Cクラス) 1単位(春学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業は産出的言語(スピーキング・ライティング)の活動により、看護に関連するコンセプトや英語スキルを応用することを目的とする。学生は以下の項目を通して、英語のスキルを練習し、磨きをかける。

- 1) スピーキング
- 2) グループ・ディスカッション
- 3) オンラインによるショート・ライティング

英語 I B(Aクラス) 1 単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

逐語訳・精読を中心とする訳読方式を離れ、速読・多読中心に総合的・実践的な読解力の養成を目指す:(1) 看護医療語彙に多用される接頭辞・接尾辞・語幹の学習
(2) エッセイ・新聞記事・科学論文の読解
(3) 身体部位の名称を含む口語表現の習得

英語 I B(Cクラス) 1 単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

逐語訳・精読を中心とする訳読方式を離れ、速読・多読中心に総合的・実践的な読解力の養成を目指す:(1) 看護医療語彙に多用される接頭辞・接尾辞・語幹の学習
(2) エッセイ・新聞記事・科学論文の読解
(3) 身体部位の名称を含む口語表現の習得

英語 I B(Dクラス) 1 単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

逐語訳・精読を中心とする訳読方式を離れ、速読・多読中心に総合的・実践的な読解力の養成を目指す:(1) 看護医療語彙に多用される接頭辞・接尾辞・語幹の学習
(2) エッセイ・新聞記事・科学論文の読解
(3) 身体部位の名称を含む口語表現の習得

英語 I B(Bクラス) 1 単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

逐語訳・精読を中心とする訳読方式を離れ、速読・多読中心に総合的・実践的な読解力の養成を目指す:(1) 看護医療語彙に多用される接頭辞・接尾辞・語幹の学習
(2) エッセイ・新聞記事・科学論文の読解
(3) 身体部位の名称を含む口語表現の習得

英語 II A(グループ1) 1 単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

大抵、第二言語を読む時、短くて難しい文書を辞書使いながら読むことが多い。「多読」というリーディングは逆のパターンである。この授業では、長くて簡単な文書を読み、辞書をあまり使わない。このようなリーディングは以下のことに役立つ:

- 1) 読む速度が早くなる。
- 2) 語彙をもっと覚えやすくなる。
- 3) 自然な英語にもっと慣れてくる。

多読は役に立つだけではなく、楽しい。ストーリーを楽しみながら、英語力が高まる。

英語 II A(グループ2) 1 単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業では、学生は英語のリスニング・スキルを磨く。現在の看護に関連する話題についての英語のビデオやポッドキャストを聞く。以下の活動でそのコンテンツに関与する:

- 1) 語彙や理解の活動
- 2) スモール・グループ・ディスカッション
- 3) クラスでの発表

英語 II A(グループ3) 1 単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

英語でニュースを読むことに慣れると、世界中からのニュースが読めるようになる。新たな観点から時事が分かってくる。非英語圏国だとしても英語の新聞があるので、英語から得られる情報量や範囲は無限に近い。

この授業では主に健康に関するトピックを中心に英語の新聞を読む。この授業を通し、英語のニュースをもっと楽に読めるようになり、日本の新聞だけに頼らず、より多くのニュースを得られることを期待する。

英語 II A(グループ4) 1 単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業は見る人を退屈させず、引きつけるプレゼンテーションを与えることに重点を置く。学生は達人のプレゼンテーションを見ることにより、それらの特質や戦略を取り入れ、英語による効果的で引きつけるプレゼンテーションを生み出す。

この授業で、以下のプレゼンテーション・スキルを高める:

- 1) プレゼンテーションの準備
- 2) プレゼンテーションの発表
- 3) プロ級のスライドの作成

英語 II B(グループ1) 1 単位(秋学期)

教授 杉本 なおみ
講師 松岡 里枝子

授業の一般目標:

医学英語検定試験3・4級の内容に沿い、①語彙問題 ②長文読解 ③会話読解 ④プラクティカル問題 ⑤リスニングを取り上げる。また、身体部位や病院内の各部局における医学英語を学ぶ。

英語 II B(グループ2) 1 単位(秋学期)

教授 杉本 なおみ
講師 穴沢 良子

授業の一般目標:

・院内における通訳とはどのようなものかを知り、主な英語表現を学びながら異文化背景を持つ患者さんへの対応等に関するトピックを扱ったリスニングや訳出の演習を通して、英語力の向上を目指す。

英語 II B(グループ3) 1 単位(秋学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

英語新聞記事見出しの読解方法を中心に、直訳・逐語訳ではなく、内容把握を中心とした英文読解力の向上を目指す。英語新聞記事見出しには、特有のルールが存在するが、一般英文法に比べ大変単純かつ規則的である。したがって、これらのルールを一旦習得してしまえば、新聞に限らず、インターネット上の英語ニュース等も効率よく読み進めることができるようになる。

英語 II B(グループ4) 1 単位(秋学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

英語スピーチの構成法、スピーチ・アウトラインの書き方、プレゼンテーションの方法について学ぶ。

英語 II A(再履修者) 1 単位(春学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

英語IIA 4 グループで扱ったすべてのテーマの復習を行う。

英語ⅡB(再履修者) 1単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

英語IIB 4グループで扱ったすべてのテーマ(新聞読解・スピーチ・医学英語検定・院内通訳)の復習を行う。

心の理解と共有(B, Dクラス) 1単位(春学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

自己及び他者理解への関心は、大学生にはとりわけ高いものと思われる。しかしこれらは相互に関連するのであり、我々は自分というフィルターを通じて他者について知り、また他者との交流を通じて自己について知るのである。この授業では、いくつかの基本的なカウンセリング、コミュニケーションの技術・理論を取り上げ、自己と他者を深く理解し、より良い援助関係を作るための考え方と方法について学ぶ。

心の理解と共有(A, Cクラス) 1単位(春学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

自己及び他者理解への関心は、大学生にはとりわけ高いものと思われる。しかしこれらは相互に関連するのであり、我々は自分というフィルターを通じて他者について知り、また他者との交流を通じて自己について知るのである。この授業では、いくつかの基本的なカウンセリング、コミュニケーションの技術・理論を取り上げ、自己と他者を深く理解し、より良い援助関係を作るための考え方と方法について学ぶ。

看護学原論 2単位(春学期)

教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

- 1.人間と環境、健康、生活、ケアリングといった看護実践を行う上で重要となる概念を理解する。
- 2.看護の過去から現在までを学び、これからの看護について考える。
- 3.看護サービスのシステムについて理解する。
- 4.看護実践における法と倫理の重要性について理解する。
- 5.看護とは何かを考へる。

基礎看護ケア実践I(看護活動の実際) 1単位 (秋学期特定期間集中)

准教授 福井 里佳

教授 藤井 千枝子

専任講師(有期) 山本 亜矢

助教(有期) 伊藤 麻美

助教(有期) 小林 良子

講師(職員) 高野 八百子

本実習は、1年生の開講日と2編生・再履修者の開講日が異なる。詳細についてはガイダンスで確認すること。

授業の一般目標:

患者の療養環境ならびに療養生活を知り、看護活動について理解を深める。

1. 患者の療養環境について知る。
2. 患者が療養生活をどのようにとらえているかを知る。
3. 看護師が患者の療養生活をどのように整えているかを知る。

今日の看護医療 2単位(春学期)

准教授 小池 智子

専任講師 藤屋 リカ

授業の一般目標:

社会の変化に伴う看護の機能や役割の拡大と、それらを支える看護学の発展と課題について理解するために、看護の幅広い分野で現在活躍している専門家をゲストスピーカーに招き、それぞれの専門の領域での活動の実際について話をうかがいます。

授業では、看護の役割の歴史の変遷、社会における看護の位置づけ、人間のQOL(Quality of Life)と看護の役割などについて専門家の意見を聞き、これを基盤に小グループで「看護って何だろう？」をテーマにディスカッションを行います。これらとおして、看護・医療にたずさわる自己の将来像の形成し、看護学を積極的に学ぶことを動機付けていきます。

生活援助技術 2単位(秋学期)

准教授 福井 里佳

専任講師(有期) 山本 亜矢

助教(有期) 伊藤 麻美

助教(有期) 小林 良子

講師 小林 梢

授業の一般目標:

人間の環境とその調整、活動と休息、清潔・衣生活、栄養と排泄に関する基礎的知識に基づき、対象者の安全、安楽、自立に配慮した上で、健康な生活を支援するための援助技術を習得する。

ライフステージと発達看護論 2単位(春学期)

教授 太田 喜久子

教授 近藤 好枝

教授 戈木クレイグヒル 滋子

准教授 小山 友里江

准教授 辻 恵子

准教授 福田 紀子

専任講師 添田 英津子

専任講師 富崎 悦子

専任講師 朴 順禮

専任講師(有期) 原田 通予

助教(有期) 西名 諒平

助教(有期) 藤本 久江

助教(有期) 真志田 祐理子

授業の一般目標:

人の一生は、生命の始まりから誕生、成長発達、成熟、穏やかに衰え、やがていつか死を迎えるというプロセスをたどる。看護は、このような人間のあらゆる段階において人々に関わり、よりその人らしく健康的な生活を送ることができるように援助するという役割をもっている。「ライフステージと発達看護論」では、看護の対象である人間を発達論的立場から理解することをめざし、胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期という発達段階における身体的・精神的・社会的な特徴ならびにセクシュアリティの意味について学習する。

人体探検 2単位(春学期)

教授 小林 正弘

准教授 今西 宣晶

准教授 神山 淳

授業の一般目標:

人の体は、様々な形状の組織や器官から構成されている。各部分の組織や器官は、それぞれ異なる役割をもっている。そのはたらきは、環境の変化や様々な行動に合わせて、無意識のうちにも、あるいは意識的にも、巧みに調節されている。体の各部分は、様々な細胞から構成され、各々の細胞は、見事に調節され機能している。本講義では、人の体の「形」と「はたらき」、すなわち「構造」と「機能」を、細胞レベルから、そして、統合されたシステムとしての人体まで、自然科学の言葉、すなわち、物理学や化学の知識・原理を土台として勉強する。この講義により、人間理解の基礎を築く。講義は、コンピュータによるプレゼンテーションを利用し、より深い理解ができるように構成する。

健康論 2単位(秋学期)

教授	鎌倉 光宏
教授	勝川 史憲
教授	山内 慶太
准教授	佐野 毅彦
講師	池田 智子
講師	落合 亮一
講師	坪田 幸政
講師	福澤 素子

授業の一般目標:

健康の概念と効果的な疾病予防について多面的な知識の習得を行い、将来の学習・活動に資することを目的とする。

身体の構造と機能 2単位(秋学期)

教授	加藤 眞三
教授	大谷 俊郎
教授	小林 正弘
教授(有期・医学部)	長谷川 直樹
医学部客員教授	美原 盤

授業の一般目標:

「身体の構造と機能」では、「人体探検」で学んだ人体の解剖学を基礎として、人体の解剖学と生理学を結びつけながらより深い知識を獲得し、理解する。本講義で得られる知識は、後に学ぶ病態学の理解を助けるものであり、病態学とも関連づけながら講義する。

地域看護論 2単位(秋学期)

教授	金子 仁子
助教(有期)	佐藤 美樹
助教(有期)	吹田 晋
専任講師	石川 志麻

授業の一般目標:

地域の人々の生活を健康との兼ね合いで理解する。地域社会の中で生活及び健康問題を看護の視点から理解し、解決に向けての方策や支援方法を学び、その中での保健師の役割について学ぶ。地域看護活動の支援技術として中核となる、家庭訪問、健康教育について学ぶ。保健師活動の特徴や地域看護・公衆衛生看護の概念について学ぶ。

慶應義塾入門 2単位(春学期)

教授	山内 慶太
教授	平野 隆
准教授	加藤 貴昭
准教授	都倉 武之
講師	大久保 忠宗
講師	神吉 創二

授業の一般目標:

本科目は、総合政策学部・環境情報学部では「未来創造カリキュラム」の総合講座科目に、看護医療学部では必修科目になっている。慶應義塾が、そしてSFCが重視する実学について理解を深めて欲しいからである。また、慶應義塾に「入門」した塾生諸君が、学年を問わず、義塾での勉学と生活の意義を考える機会となることを意図している。

SFCで取り組んでいる多くの分野は非常に実践的な学問であって、実学の最たるものであるという印象を受けるかも知れない。しかし単に実用的な学問だから実学なのだと考えるのであれば余りに短絡すぎるし、すぐに役立つことばかりに目を奪われてその背後にあるべき人間と人間社会への深い洞察を軽んずることになりかねない。「実学」という言葉は近年あまりに安易に使われるきらいがあるが、その本来の意味は、もっと深く、かつ広がりのあるものなのである。それを知る鍵は、実学を標榜した福澤先生と、その考えを受け継いできた慶應義塾の気風と歴史の中にある。単なるハウツーに陥ることなき「実学」を塾生諸君には目指して欲しいと思う。

本科目では、自分の専門との関わりの中で福澤先生や塾史について研究を進めている、多彩な領域の研究者・実業家を毎回塾内外から招き、連続講演の形式で行う。

(本科目は、例年、SFCの3学部それぞれから多数の履修者がある。毎回の講演に対する感想なども学部・専門・学年によって多様なので、それらも適宜紹介し、3学部2研究科が揃うキャンパスで学ぶことの意味と面白さも感じとって欲しいと考えている。)

生活援助技術【2編・再履修者】 2単位(春学期)

准教授	福井 里佳
専任講師(有期)	山本 亜矢
助教(有期)	伊藤 麻美
助教(有期)	小林 良子

授業の一般目標:

人間の環境とその調整、活動と休息、清潔・衣生活、栄養と排泄に関する基礎的知識に基づき、対象者の安全、安楽、自立に配慮した上で、健康な生活を支援するための日常生活行動の援助技術を習得する。

保健医療福祉行政と政策 2単位(春学期)

教授	永田 智子
准教授	小池 智子

授業の一般目標:

保健・医療・福祉に関するシステムの法的根拠および実際について理解を深め、よりよいシステム構築のための政策について学ぶ。

環境論 2単位(春学期)

教授	鎌倉 光宏
教授	藤井 千枝子

授業の一般目標:

環境(environment)の定義は、ある主体(host)を取り巻く外的条件全体とされている。本講義では人間集団の健康にとって必要な環境条件、また環境面から見た人間の活動のあり方を考察する。具体的には、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、食品安全、感染症予防、水質汚濁、大気汚染、感染性廃棄物等医療廃棄物を含む廃棄物処理、国際医療活動、在日外国人医療、室内環境管理、疫学研究方法、保健医療統計に関する講義を行う。幾つかのテーマについては問題演習も行う。

病態学入門 1単位(秋学期)

教授	大谷 俊郎
----	-------

秋学期前半の7コマで行います。他の学事日程の関係で、途中で休講、補講が入ることがあります。最終回に授業内試験を行い、学期末の定期試験は行わない予定です。

授業の一般目標:

外科学総論・外傷学総論について、第3学年春学期以降の急性期病態学講義・演習を理解し、第3学年秋学期の病棟実習を行う上で必要十分なレベルで習得することを目的とします。

精神病態学総論 1単位(秋学期)

教授	山内 慶太
講師	稲垣 中

授業の一般目標:

精神病態学総論では、病態を理解する為の基礎的知識を習得することを目的とする。まず、精神症状の捉え方から診断までの基本的な考え方を概説した上で、代表的な精神症状や状態像について解説する。また、精神科ケアを支える最も基本的な観点である医療スタッフと患者の間の関係についても考える。

慢性期病態学総論 1単位(秋学期)

教授	加藤 眞三
----	-------

授業の一般目標:

長期間の管理・ケアやリハビリなどが必要とされる慢性疾患について、講義を通して病態の理解を深める。

医療支援技術 2単位(春学期)

専任講師(有期)	山本 亜矢
教授	藤井 千枝子
准教授	福井 里佳
助教(有期)	伊藤 麻美
助教(有期)	小林 良子
講師	小林 梢

授業の一般目標:

診療の過程における看護の役割について理解し、対象者の安全、安楽に配慮した援助を行うための基礎的知識と技術を習得する。

- 1) 対象者の健康状態を把握するための知識及び技術(観察、測定、インタビュー)を習得する。
- 2) 検査や治療を受ける対象者の自立と尊厳、健康状態に配慮し、安全、安楽かつ正確な援助を実施するための知識及び技術を修得する。
- 3) 1) 2) の学習を通して、看護職の責務や役割を自覚し看護観を養う。

看護と倫理 1単位(春学期)

教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

看護専門職者に必要な倫理とは何かを学び、倫理観を育てる。

1. 看護と倫理の歴史の変遷を概観する。
2. 倫理原則および専門職の倫理綱領について検討する。
3. 看護実践における倫理的意思決定の過程について理解する。

看護基本技術 2単位(春学期)

准教授	福井 里佳
専任講師(有期)	山本 亜矢
助教(有期)	伊藤 麻美
助教(有期)	小林 良子
講師	古田 真弥子

授業の一般目標:

看護過程は、患者-看護師関係を土台にして看護の問題解決的思考及び実践により展開される一連の過程であることを理解できる。

- 1) 社会や家族の中で成長発達し、個性をもつ生活者としての対象者を理解し、援助の必要性を判断するための情報と情報源、情報収集の手段がわかる。
- 2) 対象者の生活上のニーズや健康上の問題を明らかにして、援助を行うために用いる看護の問題解決的思考の過程について理解できる。
- 3) 看護過程を用いて事例患者のアセスメントを行い、全体像から導き出された健康上の問題(看護診断)に沿って援助計画を立案することができる。
- 4) 事例の患者に合わせた生活援助を計画し、対象者への配慮と根拠をふまえて実施することができる。

基礎看護ケア実践Ⅱ(生活援助) 2単位 (秋学期特定期間集中)

准教授	福井 里佳
教授	宮脇 美保子
助教(有期)	伊藤 麻美
助教(有期)	小林 良子
専任講師(有期)	山本 亜矢
講師	古田 真弥子

授業の一般目標:

1. 患者を全人的に理解する。
 - 1) 患者の基本的ニーズを理解する。
 - 2) 患者を一人の生活者として理解する。
 - 3) 患者とともに健康および病むことの意味について考える。
2. 患者と看護師の信頼関係にもとづいた看護実践を行う。
 - 1) 患者に関心を持ち、意図的に関わる。
 - 2) 患者の尊厳と権利を尊重する。
 - 3) 患者の状態についてアセスメントし、看護援助の必要性を判断する。
 - 4) 必要性の判断に基づいた個別的、具体的な看護計画を立案する。

- 5) 患者とともに目標を設定し共有する。
 - 6) 立案した援助計画を患者に説明し、承諾を得る。
 - 7) 患者に必要な援助を実施する。
 - 8) 患者とともに実施した看護について評価する。
3. 看護実践に必要な看護師としての基本的態度を養う。
 - 1) 看護学生として適切かつ責任のある行動をとる。
 - 2) 看護学生として倫理的問題に対する感受性を高める。
 - 3) プライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
 - 4) 他の医療従事者とのかかわりを通して、チーム医療の重要性を理解する。
 - 5) 教員や看護師に時宜を得た質問、報告、相談ができる。
 - 6) 実習目標に沿った内容を日々記録する。
 - 7) 学びを言語化し、主体的に学習する。
 - 8) 他の学生と意見交換し、学びを共有する。
 - 9) 自己の健康管理に留意する。

母性発達援助実践 2単位(秋学期特定期間集中)

教授	近藤 好枝
准教授	辻 恵子
専任講師(有期)	原田 通予
助教(有期)	藤本 久江
講師	大島 美佐恵

秋学期、水曜日・木曜日に、母性発達援助実践、老年発達援助実践の2科目が並行して開講されます。実習日程に注意してください。

授業の一般目標:

母性発達援助論での学びを土台にして、周産期にある女性と子ども・家族の心身の変化・ニーズ・適応過程・発達課題を理解し、個別的な看護が実践できる基本的能力を養う。また、臨地実習を通して周産期にある女性と子ども・家族に関わることによって、人間の生涯を通じた発達促進と健康増進のための援助の方向性を考察する。

母性発達援助論 2単位(春学期)

教授	近藤 好枝
准教授	辻 恵子
専任講師(有期)	原田 通予
助教(有期)	藤本 久江
講師	高岡 智子

授業の一般目標:

思春期から妊娠期・出産期・育児期を経て更年期に至るまでの女性の性と生殖に関わる健康課題、新生児期の特徴と成長発達課題、健康課題について学習する。また、各期の生理的、心理・社会的特徴を理解した上で、健康を維持・促進するための母子保健活動のあり方やケア方法を学ぶとともに、健康障害をきたしやすい周産期に焦点を当て、必要な母性看護援助技術の習得を目指す。

老年発達援助論 1単位(春学期)

教授	太田 喜久子
助教(有期)	真志田 祐理子
講師	加藤 忠相
講師	山下 由香

授業の一般目標:

「ライフステージと発達看護論」で学んだ人間の身体的・精神的・社会的な特徴を基礎に、老年期にある人々の健康と生活の特徴を理解し、加齢による生活行動の変化と健康課題、ならびに健康課題の解決に向けた看護援助について学習する。

老年発達援助実践 2単位(秋学期特定期間集中)

教授	太田 喜久子
助教(有期)	真志田 祐理子

授業の一般目標:

老年期にある人々が、身体・精神・社会的に健全な成長・発達・成熟を継続できるよう、高齢者の健康と生活について理解し、併せて健康に関わるケアサービスを提供する場の特徴を知り、高齢者と家族に必要な援助を考え、看護援助をおこなう能力を養う。

小児発達援助論 1単位(春学期)

専任講師 添田 英津子

授業の一般目標:

「ライフステージと発達看護論」で学んだ子どもの身体的・精神的・社会的な発達の知識を基に、子どもの健康の保持増進のために必要な保健活動や、各発達段階に特有な健康問題とそれに対する支援について、講義を通して学習します。

成人発達援助論 1単位(春学期)

専任講師 新幡 智子
准教授 矢ヶ崎 香
助教(有期) 齋藤 義信
講師 尾形 珠恵

授業の一般目標:

ライフステージと発達看護論で学んだ人間の身体的・精神的・社会的な特徴を基に、成人期にある人々の保健の動向、健康問題・課題と生活の特徴を理解し、健康的な生活をはぐくむための援助について考えることができる。さらに健康レベルに対応した対象者の理解と援助について考えることができる。

在宅看護論 2単位(秋学期)

教授 永田 智子

授業の一般目標:

在宅療養者を取りまく社会状況や保健医療福祉のしくみの理解を踏まえて、在宅療養者の生活や健康上の問題およびケアの提供方法に関する講義を行う。

在宅看護技術演習(A, Bクラス) 1単位(秋学期)

教授 永田 智子
助教(有期) 木下 ユリコ
講師 田中 弥生
講師 渡邊 宏樹

授業の一般目標:

在宅での看護実践の基本的な知識・技術を学ぶ。在宅療養の中で多く見られる疾患の特徴とそれに対する在宅での看護の実践について理解を深める。また、在宅療養における利用者・家族の生活とそれに対する看護の特徴について理解するとともに、それらを支える地域ケアシステムの在り方について学ぶ。

在宅看護技術演習(C, Dクラス) 1単位(秋学期)

教授 永田 智子
助教(有期) 木下 ユリコ
講師 田中 弥生
講師 渡邊 宏樹

授業の一般目標:

在宅での看護実践の基本的な知識・技術を学ぶ。在宅療養の中で多く見られる疾患の特徴とそれに対する在宅での看護の実践について理解を深める。また、在宅療養における利用者・家族の生活とそれに対する看護の特徴について理解するとともに、それらを支える地域ケアシステムの在り方について学ぶ。

学校・産業保健 2単位(秋学期)

教授 金子 仁子
教授 濱田 庸子
専任講師 石川 志麻
講師 池田 智子
講師 小田上 公法
講師 小野崎 有子
講師 片岡 ゆみ

11/28(月)1コマ(4限)、12/12(月)1コマ(4限)、1/21(土)3コマ(1・2・3限)、1/23(月)2コマ(3・4限)は授業日となります。これらの変更のため、11/7(月)2コマ(3・4限)、11/28(月)、12/5(月)、12/12(月)は、地域看護活動論の授業を繰り上げて行います。地域看護活動論のシラバスも参照のこと。

授業の一般目標:

学校保健・産業保健について健康管理の原則および方法について関係法規をふまえながら理解する。
産業保健においては今日の日本における健康課題である過重労働、メンタルヘルスについて現状と支援方法の基礎について学び産業保健師の役割を理解する。
産業保健における重要な役割を果たす産業医の役割を学び、産業保健におけるヘルスケアチームのあり方について考える。
学校保健においては、保健教育、保健管理全般について理解した上、不登校、いじめ等、現状についての健康課題および支援の基礎を学び、その中での養護教諭について理解する。
保健室の運営における養護教諭の役割を理解する。
現在、それぞれの現場で活躍中の方のお話から、産業保健師・養護教諭の役割について具体的に学ぶ。

地域看護活動論 2単位(秋学期)

専任講師 石川 志麻
教授 金子 仁子
准教授 小熊 祐子
助教(有期) 佐藤 美樹
助教(有期) 吹田 晋
講師 村山 志保

授業の一般目標:

地域社会の中で暮らす人々の健康問題に対して保健師が行う支援方法としての家族支援・保健指導、セルフヘルプグループへの支援を学びます。
また、対象別の親子・高齢者・成人の現状を理解し、これらの対象に対しての制度やシステムを理解し、保健師の支援方法についても学びます。
保健・医療・福祉の様々な職種によるチームで支援のあり方やチーム支援時の保健師および看護職の役割について学びます。
これらの支援あり方や保健活動と保健師の役割は、看護師としても基本事項なのでしっかり理解することが大切です。

小児看護ケア実践 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 戈木クレイグヒル 滋子
専任講師 添田 英津子
専任講師 富崎 悦子
助教(有期) 西名 諒平

7月〇〇日開催の「臨床実習ガイダンス」に出席すること

授業の一般目標:

成長発達過程にある様々な健康レベルの子どもと家族の状況を理解し、子どもの最善の利益を目指した看護を実践するための基礎を養う。保育所(園)実習を通して健康な子どもと家族を、病棟実習を通じて健康障害のある子どもと家族のおかれている状況を理解し、子どもの成長発達を促進するために家族や社会が担う役割と、多様なヘルスニーズにあわせた看護実践を学ぶ。

急性期病態学総論 1単位(春学期)

教授 大谷 俊郎
准教授 長谷川 博俊
専任講師 川久保 博文
専任講師 北郷 実
准教授 篠田 昌宏
専任講師(有期・医学部) 林田 哲
助教(有期・医学部) 岡林 剛史

授業の一般目標:

- (1) 患者中心の急性期医療を提供するために必要な病態学の知識を学ぶ。
- (2) 2学年秋学期の「病態学入門」の知識を基礎として、一般・消化器外科領域の病態学を学習する。具体的には乳腺、食道、胃、下部消化管、胆・膵疾患、肝・膵・臓器移植、急性腹症・イレウス・小腸などについて、担当の専門医から講義を受ける。
- (3) 上記のうち適切な教材による演習を実施する。

急性期病態学各論 2単位(春学期)

教授 大谷 俊郎
教授 黒田 達夫
准教授 大塚 崇
准教授 尾原 秀明
専任講師 小澤 宏之
専任講師 小杉 志都子
専任講師 朴 順禮
専任講師 堀口 崇
専任講師 松本 直
助教 杉浦 弘明
助教(有期) 高畑 和恵
助教(有期) 瀧田 結香
専任講師(有期・医学部) 瀧本 康史
助教(有期・医学部) 関 博志
助教(有期・医学部) 吉田 佳代
講師 大橋 正和
講師 下島 直樹
講師 鈴木 孝明
講師 山本 貴章
医学部客員教授 高松 潔
医学部客員准教授 廣谷 隆

講義枠とは別の水曜日午後にBLS実習を行います。
日程は別途発表します。
テキスト代金1500円を当日徴収予定です。

授業の一般目標:

- (1) 患者中心の急性期医療を提供するために必要な病態学の知識を学ぶ。
- (2) 2学年秋学期の「病態学入門」の知識を基礎として、一般・消化器外科以外の外科系病態学を中心に学習する。具体的には、麻酔学、術後疼痛・慢性疼痛の管理、放射線診断、放射線治療、末梢血管疾患、脳神経外科疾患、呼吸器外科疾患、小児外科疾患、先天性心疾患、後天性心疾患、婦人科機能異常・腫瘍、周産期の異常、尿路・副腎外科疾患、頭頸部領域悪性腫瘍、運動器疾患、術前術後管理などについて、担当の専門医から講義を受ける。
- (3) 上記のうち適切な教材による演習を実施する。

慢性期病態学各論 3単位(春学期)

教授 加藤 眞三
教授 大谷 俊郎
教授 森 正明
教授 里宇 明元
准教授 矢ヶ崎 香
准教授 脇野 修
専任講師 新幡 智子
専任講師 伊東 大介
専任講師 大石 直樹
専任講師 柴 秀行
専任講師 嶋田 博之
専任講師 鈴木 重明
専任講師 目黒 周
専任講師 安岡 秀剛
助教 肥沼 悟郎
助教(有期) 田村 紀子
特任講師 片岡 雅晴
教授(有期・医学部) 門川 俊明
教授(有期・医学部) 山岸 敬幸
専任講師(有期・医学部) 大木 宏一
専任講師(有期・医学部) 長田 高志
専任講師(有期・医学部) 税所 芳史
専任講師(有期・医学部) 船越 建
助教(有期・医学部) 伊澤 良兼
助教(有期・医学部) 関水 真理子
講師 島崎 潤
講師 中村 守男
講師 西尾 和三
講師 森 茂久

授業の一般目標:

長期間の管理・ケアやりハビリなどが必要とされる慢性疾患について、講義を通して病態の理解を深める。

精神病態学各論 1単位(春学期)

教授 山内 慶太
教授 濱田 庸子
専任講師 田淵 肇
助教(有期・医学部) 宗 未来
講師 稲垣 中
講師 岡 檀
講師 田中 祥雅
講師 久江 洋企
医師 穴水 幸子

授業の一般目標:

精神病態学各論では、精神病態学総論で得た知識を基に、主要な精神疾患について、その病態と治療方法を理解する。まず、精神医療における主要な治療方法を解説する。次いで、代表的な疾患について診断方法・治療方法・治療の経過などを解説する。また、症例検討を通じて、理解を深める

終末期病態学 1単位(春学期)

教授 加藤 眞三
准教授 橋口 さおり
講師 上田 紀行
講師 川口 有美子
講師 坂下 裕子
講師 原 敬
講師 前田 浩利

授業の一般目標:

死を間近に迎える人の身体や心に何が起きているのか、成因、病因(原因疾患)、病態、社会的背景を理解し、死の定義、QOL(いのちの質)、疼痛コントロール、症状緩和、終末期看護、終末期医療のあり方等について学び、ケアする態度を身につける。

看護のための薬理学【学期後半】 2単位(秋学期)

教授	鎌倉 光宏
教授	大谷 壽一
教授	三澤 日出巳
准教授	鈴木 岳之
専任講師	森脇 康博
講師	内田 さえ
講師	平野 秀典
講師(職員)	山口 雅也
講師(職員)	村松 博

講義開始は、11月1日(水)第1時限からである。開講当日から教科書を使用する。

授業の一般目標:

臨床応用にも役立つ薬理学の基礎知識の習得を目的とする。総論および臓器系別の各論の学習に加え、副作用、関連法規、投薬事故の防止についても学習し、職務を行うのに必要な知識を習得することも目的とする。

急性期看護学 2単位(春学期)

専任講師	朴 順禮
助教(有期)	高畑 和恵
助教(有期)	瀧田 結香
講師	佐々木 吉子
講師	佐藤 正美
講師(職員)	高野 八百子
講師(職員)	高橋 知彦
講師(職員)	田山 聡子

授業の一般目標:

看護論・看護技術・人間発達学の領域で学んだ知識を基盤に、急性期病態学を関連づけながら、急性期・急性状態にある患者の病態や心理、その家族を含めた状況を理解し、そのような人々を支え、看護ケアを実践するのに役立つ理論や知識を幅広く学習する。多くのストレス下におかれた患者の対処能力が最大限に発揮されるための支援や、健康回復・維持、QOLの向上などの広い視点から問題を捉え、解決していくための看護について学ぶ。

慢性期看護学 2単位(春学期)

教授	小松 浩子
准教授	小山 友里江
准教授	矢ヶ崎 香
専任講師	新幡 智子

授業の一般目標:

慢性・長期的な疾病や障害に伴う健康状態の特徴を理解する。それらに基づき、慢性的な健康状態の揺らぎ(潜在的なストレス状態、病との共生、増悪と寛解、ターミナルステージなど)の中で生活している人・家族がセルフケア能力を高め、生活と療養のバランスを保ちながら最適な健康状態を生み出していくことができるよう援助するための理論と方法について学ぶ。

小児看護学 1単位(春学期)

教授	戈木クレイグヒル 滋子
専任講師	添田 英津子
専任講師	富崎 悦子
助教(有期)	西名 諒平

授業の一般目標:

『ライフステージと発達看護論(小児期)』『小児発達援助論』での学びをもとに、健康障害や疾病が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。さらに、子どもと家族がもつセルフケア能力を高めつつ、子どもの発達を支援するための看護を学び、『小児看護ケア実践』につなげる。

精神看護学 2単位(春学期)

教授	野末 聖香
准教授	福田 紀子
助教(有期)	西池 絵衣子
助教(有期)	緑川 綾
講師(職員)	河野 佐代子

授業の一般目標:

心を理解するための諸理論、援助的対人関係論、セルフケア看護理論など精神看護学の基盤となる諸理論を学ぶ。精神状態のアセスメント、精神状態と身体状態や生活行動との関連の理解、援助的対人関係を築く技術、セルフケア援助論とその適用、およびさまざまな精神疾患を抱える人々に対する看護の方法を学ぶ。また、精神保健医療福祉における法制度や倫理について理解する。

終末期看護学 1単位(春学期特定期間集中)

教授	小松 浩子
准教授	小山 友里江
准教授	矢ヶ崎 香
専任講師	新幡 智子

授業の一般目標:

人生の終末期にある人とその家族に対して、人間としての尊厳を保ちつつ、その人や家族にとって生と死が有意義なものとなるようめざしたケアについて学ぶ。

1. 人生の終末期にある人とその家族について理解する。
2. 人生の終末期にある人や家族へのケアの基盤となる概念・理論を学ぶ。

成人看護技術演習 1単位(春学期)

専任講師	朴 順禮
教授	小松 浩子
准教授	小山 友里江
准教授	矢ヶ崎 香
専任講師	新幡 智子
助教(有期)	井ノ下 心
助教(有期)	榊原 直喜
助教(有期)	高畑 和恵
助教(有期)	瀧田 結香
助教(有期)	田村 紀子
助教(有期)	西池 絵衣子
助教(有期)	緑川 綾
講師(職員)	羽飼 富士男
講師(職員)	阿部 薫
講師(職員)	安藤 牧子
講師(職員)	市川 雅彦
講師(職員)	植田 健
講師(職員)	上迫 道代
講師(職員)	川平 洋輔
講師(職員)	坂井 聖子
講師(職員)	東海林 淳一
講師(職員)	鈴木 徹也
講師(職員)	根本 はるか
講師(職員)	深井 和良
講師(職員)	祝 広香
講師(職員)	三森 由香子
講師(職員)	久保 さと子
講師(職員)	秋山 結美子

授業の一般目標:

成人看護実践(急性期、慢性期、終末期)の領域において、看護技術の原理に基づき最大のケアの効果をあげることができる適切な看護技術について演習により学ぶ。

急性期看護学演習 1単位(春学期)

専任講師 朴 順禮
助教(有期) 高畑 和恵
助教(有期) 瀧田 結香

成人看護技術演習との組み合わせで開講されることがありますのでご注意ください。
急性期病態学の一部が事例演習になります。4月25日(火) 1時限、6月6日(火) 1時限、6月22日(木) 1時限

授業の一般目標:

既習科日で学んだ知識や技術を基に、急性期にある患者の看護過程を事例の看護に必要な技術演習を組み入れながら展開し、問題解決能力を養う。

急性期にある患者の身体・心理・社会的側面に対する理解を深め、ケアに関わる看護職の役割・機能について学ぶ。

慢性期看護学演習 1単位(春学期)

准教授 矢ヶ崎 香
教授 小松 浩子
准教授 小山 友里江
専任講師 新幡 智子
助教(有期) 井ノ下 心
助教(有期) 榊原 直喜
助教(有期) 田村 紀子
講師(職員) 羽飼 富士男

授業の一般目標:

慢性・長期的な疾病・障害をもつ患者・家族の特徴や、病態・看護に関する基本的な知識を深め、情報やデータ、論理的な思考過程に基づいて患者の看護問題を抽出し、個別的な看護計画を立案する。これらを通して慢性・長期的な疾病・障害をもつ患者・家族への看護について学ぶ。

小児看護学演習 1単位(春学期)

教授 戈木クレイグヒル 滋子
専任講師 添田 英津子
専任講師 富崎 悦子
助教(有期) 西名 諒平
講師(職員) 廣明 由子
講師(職員) 山本 綾子

授業の一般目標:

『ライフステージと発達看護論(小児期)』『小児発達援助論』『小児看護学』で学んだ知識を基に、健康障害をもつ子どもと家族の事例を用いた看護過程演習を通して、問題解決能力を養う。くわえて、看護技術演習を通して、小児領域での看護実践に必要とされる態度と技術を学ぶ。

精神看護学演習 1単位(秋学期特定期間集中)

准教授 福田 紀子
教授 野末 聖香
助教(有期) 西池 絵衣子
助教(有期) 緑川 綾

詳細は、配布する「精神看護学演習ガイド」に網羅されているので、熟読し、日時・場所について、充分に確認すること。

授業の一般目標:

精神看護学の学習を基盤に、より具体的な臨床諸問題を取り上げて、対象者の理解を深めるためのアセスメント技法、看護援助方法を学習する。また、対象者との望ましい援助関係を築く力を高めるための演習を行う。さらに地域における精神保健医療活動の実践について体験的に理解を深める。

目標は、1) 対象者の理解を深めるためのアセスメント技法や、看護援助方法を学習する、

2) 地域リハビリテーション施設において諸職種の活動の実際を知り、利用者がどのように施設を利用し、生活しているのか、また諸職種との連携について学ぶ、3) 精神障がい者の治療のダイナミクスと環境について学ぶ、である。

終末期看護学演習 1単位(春学期特定期間集中)

准教授 小山 友里江
教授 小松 浩子
准教授 矢ヶ崎 香
専任講師 新幡 智子
助教(有期) 井ノ下 心
助教(有期) 榊原 直喜
助教(有期) 田村 紀子
講師 和田 文緒
講師(職員) 近藤 咲子

授業の一般目標:

人生の終末期にある人や家族にとって生と死が有意義なものとなることをめざしたケアの基盤となる概念・理論を学び、それらに基づいたケアの方法について理解し、さらにそれらを体験的に深める。人生の終末期にある人とその家族の苦痛や思いに関心を寄せ、これらの学習のプロセスを通じて個々の死生観・看護観を深める。

急性期ケア実践 3単位(秋学期特定期間集中)

教授 武田 祐子
専任講師 朴 順禮
助教(有期) 高畑 和恵
助教(有期) 瀧田 結香

実習ガイドで日程を確認下さい。

オリエンテーション日程については掲示もご注意ください。

授業の一般目標:

急性期看護学、急性期看護学演習、成人看護学技術演習および急性期病態学を基盤に既習の知識や技術を統合して、急性期状況にある患者、とくに手術を受ける患者の術前・術中・術後のケアを実践する。様々な発達段階にある患者を対象として、疾患(病態)や手術侵襲がどのような生体反応を引き起こし、それらにどう対処することができるのか、予防的ケアを含めた周手術期看護の実際について看護過程を通して学習する。また、手術室におけるチームアプローチや看護の役割の実際を知る。

慢性期ケア実践 3単位(秋学期特定期間集中)

准教授 矢ヶ崎 香
教授 小松 浩子
准教授 小山 友里江
専任講師 新幡 智子
助教(有期) 井ノ下 心
助教(有期) 榊原 直喜
助教(有期) 田村 紀子

授業の一般目標:

慢性・長期的な疾病・障害をもつ患者の疾患や治療および患者・家族が病とともに生きるという体験や生活への影響を理解する。それに基づき病とともに生きるうえで必要となるセルフケア能力を高め、その人らしい生活や人生を送ることができるよう支援する基本的看護実践能力と看護観を養う。

精神ケア実践 2単位(秋学期特定期間集中)

准教授 福田 紀子
教授 野末 聖香
助教(有期) 西池 絵衣子
助教(有期) 緑川 綾

詳細は、配布する「精神ケア実践ガイド」に網羅されているので、熟読し、日時・場所について充分に確認すること。

授業の一般目標:

精神障がいを抱える患者を統合的に理解し、患者の心身の健康と日常生活行動の向上を目指して、精神看護学の知識と技術を用いた援助を行い、ケアの実際を体験的に学ぶ。

目標は、1) 精神障がいを抱える患者を精神的・生物的・社会的及びセルフケアの視点から統合的に理解する 2) 対人関係のかかわりを基盤として、患者及び自己の理解を深める 3) 患者の精神状態、身体状態に即したセルフケア支援ができるように、援助の方法を工夫し、実践し、評価する 4) 精神障がいを抱えることによ

て生活上どのような困難を持つのか、どのような体験をしているのかを理解する 5) 精神医学的治療とその意義を理解する、である。

終末期ケア実践 2単位(秋学期特定期間集中)

准教授 小山 友里江
教授 小松 浩子
准教授 矢ヶ崎 香
専任講師 新幡 智子
助教(有期) 井ノ下 心
助教(有期) 榊原 直喜
助教(有期) 田村 紀子

授業の一般目標:

人生の終末期にある人とその家族に対し、全人的な苦痛を理解し、人間としての尊厳を保ちつつ、その人や家族の生きてきた生活や人生のあり方を考慮し、その人らしい生活を送ることができるよう支援する基本的看護実践能力を養う。また人生の終末期にある人と家族に関わることを通して、生と死に関する自己の考えや看護観を深める。

医療システムアプローチ実践 1単位(春学期特定期間集中)

教授 小松 浩子
准教授 小山 友里江
准教授 矢ヶ崎 香
専任講師 新幡 智子
専任講師 朴 順禮
助教(有期) 井ノ下 心
助教(有期) 榊原 直喜
助教(有期) 高畑 和恵
助教(有期) 瀧田 結香
助教(有期) 田村 紀子

授業の一般目標:

I. 実習目的

専門性や特殊性の高い医療・ケアの実際を知り、患者の人権の保障やQOL(Quality of Life)を支える、他職種との協働・連携による医療システムのあり方やアプローチについて追及し、看護の役割について統合的に学習する。

II. 実習目標

【Part1】

患者中心の医療を提供するために、医療チーム構成員としての役割を理解し、幅広い職種からなる他のメンバーと協調して問題に対処できる。

【Part2】

1. 急性・重篤な状況にある患者、慢性・長期的な疾病・障害をもつ患者の身体・心理・社会的特徴を理解する。
2. 行われている特殊性・専門性の高い治療やケアの目的、方法、意義を理解し、看護援助に必要な知識・技術がわかる。
3. 他職種との連携、協働のあり方を理解する。
4. 患者および家族のQOLを支えるための医療の現状と課題および看護が果たす役割を考える。
5. 医療チームの一員である自覚を持ち行動する。

在宅看護実践 2単位(春学期特定期間集中)

教授 永田 智子
助教(有期) 木下 ユリコ

授業の一般目標:

目的;在宅療養者および家族の生活場面から「在宅療養の現状」「療養と生活のあり方」「社会資源との関わり」を包括的にとらえ、在宅療養者の生活の質(QOL)の維持・向上のための看護活動と看護職の役割について学ぶ。

実習目標:①在宅療養者の生活場面を通して療養者と家族について理解する。②訪問看護ステーションの活動内容を理解し、訪問看護活動の実際を学ぶ。③在宅療養者が利用する社会資源について理解を深める。

ナーシングマネジメント論 2単位(春学期特定期間集中)

准教授 小池 智子
専任講師 藤屋 リカ

授業の一般目標:

看護職は全医療専門職の半数以上を占めており、看護職の質が医療の質を左右する要となっている。本科目では看護における管理の基本的な概念を学び、人々の多様なニーズに応じた質の高いケアを提供するための組織管理などの方法について学習する。ここでは特に、医療機関の看護サービス・マネジメントに焦点を当て、価値あるサービスを提供するための組織のビジョン、医療安全および医療サービスの質を担保する医療サービス提供システム、人材育成、人的資源管理、リーダーシップ等を学ぶとともに、経済効率を考慮した管理方法についてもふれる。さらに、今日的な医療における課題を看護の役割・機能の視点から分析し、将来に予測されるケアニーズを明らかにするとともに、医療機能分化や地域連携、チーム医療の推進などを踏まえた今後の看護管理のあり方を考える。

ナーシングマネジメント実践 1単位(春学期特定期間集中)

准教授 小池 智子
専任講師 藤屋 リカ
看護部長 松田 美紀子

実習期間

前半:2017年7月4日(火)・5日(水)・6日(木)・7日(金)
後半:2017年7月11日(火)・12日(水)・13日(木)・14日(金)

授業の一般目標:

人々のニーズに応じた質の高い医療ケアサービスを効果的、効率的に提供するためには、人的資源、物的資源、システムの有効な活用が必要である。『ナーシングマネジメント実践』実習では、医療ケアの①効果性、②安全性、③効率性の視点から、ケアの質保証システムがどのように整備され機能しているのか、またこれらと病院経営との関係はどのようなものかについて、病棟・外来の看護管理者とともにしながら、病院における看護管理のあり方と実際を学ぶ。

生命倫理 1単位(秋学期)

教授 宮脇 美保子
教授 奈良 雅俊

授業の一般目標:

生命倫理に関する基礎的知識を習得するとともに、生命倫理をめぐる諸問題について検討する。

- 1) 事例検討を通して倫理的問題を分析し、倫理的意思決定の過程を習得する。
- 2) 生命倫理の課題について、倫理的視点から問題を説明し、自己の考えを述べることができる。
- 3) 他者との意見交換を通して、生命倫理に関する考えを深めることができる。

移行期看護論 1単位(秋学期)

教授 小松 浩子
教授 永田 智子
教授 藤井 千枝子
准教授 小池 智子

授業の一般目標:

人々の健康状態の移行期に関する概念と理論、援助論についてケースメソッド(case-method)を通して学ぶ。事例についてグループワークによる分析をすすめる。

心の理解と共有(2編生) 1単位(秋学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

自己及び他者理解への関心は、大学生にはとりわけ高いものと思われる。しかしこれらは相互に関連するものであり、我々は自分というフィルターを通じて他者について知り、また他者との交流を通じて自己について知るのである。この授業では、いくつかの基本的なカウンセリング技術・理論を取り上げ、自己と他者を深く理解し、より良い援助関係を作るための考え方と方法について学ぶ。

コミュニケーションの理論と実際 2単位(春学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

コミュニケーションが日常生活および看護医療場面に与える影響について考える。理論と実践の両立を目指し、参加型授業を通してコミュニケーションへの理解を深める。まず、コミュニケーションに関して一般的に信じられている「迷信」の誤りを正すところから講義を始める。次に、コミュニケーションにおける要素(意味とコンテキスト、発信・受信、メッセージとフィードバック、チャンネル、ノイズ)について理解を深める。最後に、対立場面、集団・組織、異文化接触といった特殊な状況におけるコミュニケーションの諸相を概観する。

心理学 2単位(春学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

一口に心理学と言っても、広大な範囲と内容に及んでいる。また、心理学は身近なテーマを扱うがゆえに、非常に誤解されやすい学問でもある。本授業では、社会的認知、対人関係、意思決定に関するトピックスをいくつか取り上げ、簡単な研究を実際に体験することで、その内容を理解してもらう。この授業を通じて、我々の日常行動を点検し、自己の姿を把握するためのものの見方や方法を身に付けて欲しい。

人間生命を考える 2単位(秋学期)

准教授 増田 真也
教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

戦争、災害、難病、貧困など、人は自分の力ではどうすることもできないような過酷な状況、極限状況におかれることがある。こうした中で生き、死んでいった人が何を考え、悩み、苦しみ、その中でどのようにして生きる意味を見出してきたかについて知ることは、いかなる状況であっても患者の可能性を探る努力をすることが求められる看護に携わる上で有益であろう。この授業では、人が時にそうした極限状況に直面させられるだけではなく、他者に対して容易に作りうるものであるということについても学び、生きる意味や価値とは何であるかについて考える。

看護のための生物学 2単位(春学期)

教授 鎌倉 光宏
客員教授 末松 誠
講師 蓑島 伸生

授業の一般目標:

本科目では人体に関わる生物学および病理学を中心とした講義が行われる。細胞生物学、人体の組織と機能、微生物学総論、分子生物学の基礎(染色体・遺伝子の構造と機能を理解し、基礎から診断・治療への応用を考える)、病態生化学(ミトコンドリア学、酸素利用など)、悪性新生物の病理等の講義を行う予定。講義の対象は細胞生物学の一部を除いて人体に限り、高校までの生物学とは異なった内容から構成される。一部の項目では問題演習を行う。

健康教育技法 1単位(春学期)

教授 金子 仁子
講師 石井 敏弘
講師 森田 夏実
講師 渡部 月子

4月15日(土) IV~VI信濃町で実施。
6月7日(水) V限sfc実施
5月2・9・16日休講、6月6日休講。

授業の一般目標:

看護における対象者への教育的役割や機能には、啓発・予防活動としての健康教育、疾患や治療理解と自己管理のための教育、death educationなどがある。この科目では、さまざまな場における広範囲に活用できるよう、自己・他者・相互理解、健康教育の目的・目標・

方法、その基本になる保健行動理論、健康教育指導案の立案、実践活動の実践について学習する。

ボランティア体験 1単位(秋学期特定期間集中)

特任講師(非常勤) 櫻田 周三
准教授 増田 真也

授業の一般目標:

この授業は、主体的な社会参加の機会であるボランティア活動に実際に取り組んでみて、社会の多様性と向き合いどのような貢献ができるかだけでなく、遭遇したリアルな体験を振り返りながら、自分が得た気づきや学びにも焦点を当てる体験学習プログラムです。そのために履修者は、春学期のオリエンテーション(1回)を経て、夏季休暇中に一定期間(合計5日間)、ボランティア活動に取り組んでもらいます。そこで得られた体験を秋学期に実施するワークショップ(1回)で互いに共有し、活動を通して印象に残った人や出来事等に多面的に光を当てながら、ボランティアのもつ社会的意義や可能性、自分にとっての意味や価値等について共に考えます。さらには、ライフキャリアの観点から、今後の生き方にボランティアがどのように位置づけられるかについても考察します。

世界の医療・保健制度Ⅱ(海外研修) 2単位 (秋学期特定期間集中)

准教授 小池 智子
専任講師 藤屋 リカ

授業の一般目標:

英国における医療・看護・保健・福祉に関わる制度や政策について、現地における講義・見学・参加を通じて知見を広め、日本における制度や政策と比較し、考察を深める。病院・公共機関・福祉施設・教育機関を訪問し、看護及び看護教育・福祉・医療政策に関わる現地の講師による講義を受けるとともに、討議を行う。

マルチメディア表現 2単位(秋学期)

准教授 宮川 祥子

授業の一般目標:

本科目では、3Dプリンターをはじめとするデジタルファブリケーション技術を用いて、ケアの現場での課題を、自助具やサポート用品などの「もの作り」を通じて解決するための手法について学ぶ。本講義では、A11教室のワークステーション環境を用い、CADソフトウェアの使い方を学んだ上で、ケア用品の設計と試作を行う。

看護医療の英語Ⅰ 2単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

日本は前例のない人口の激減を直面している。少子化、労働人口の停滞、人口の高齢化、過疎問題などである。この授業では、これらの問題やその対策対応について探求する。

以下の活動によりこの授業を行う:

- 1) リーディング
- 2) ディスカッション
- 3) プロジェクト・プレゼンテーション

ストレスマネジメント 2単位(秋学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

ストレスは既に日常語となっているが、ストレスがどのようなものであるかや、その影響がいかなるものであるかについては誤解されていることも多い。この授業は、講義、アセスメント、実践・介入の3つからなり、ストレスについての理解と対応のための方法の習得を目指す。できるだけ、実際の体験を通じて理解が深まるよう努める。

社会福祉原論 1単位(秋学期)

教授 金子 仁子
講師 御領 奈美

授業の一般目標:

社会保障・社会福祉の概念や法的制度の概要を理解する。
社会保障制度のうち、生活保護、健康保険制度、年金制度について理解する。
医療ソーシャルワーカーの活動の実際から社会福祉・社会保障の課題を学ぶ。

世界の医療・保健制度 I (比較制度論) 2単位(秋学期)

教授 山内 慶太
教授 前田 正一
教授 渡辺 美智子
准教授 小池 智子

授業の一般目標:

近年、人口構造の高齢化の進展や社会経済情勢の変化に対応して、各国でさまざまな医療保健制度改革への取り組みが行われている。我が国においても、良質かつ適切な医療を確保しつつ、全体としての医療サービスを効率化する取り組みや医療提供体制を含めた医療制度全般の改革が課題となっている。そこで、欧米先進諸国の医療保健政策の動向および、それら医療改革の成果と課題を学習することにより、今後の我が国の医療保健政策の在り方を考察する契機とする。

医療と経済 2単位(秋学期)

教授 山内 慶太

授業の一般目標:

我が国の医療の仕組みは医療保険制度と種々の法体系によって規定されており、臨床現場で仕事をする際にも、日本の医療のあり方を考える際にも、これらについての理解が必要である。そこで最初に、我が国の医療制度について、特に経済的側面から概観する。更に、その問題点を分析し、より良い医療のあり方を追求するにあたって不可欠な医療経済学の基礎的な理論・考え方、医療技術の経済的評価の方法論とその応用について学習する。講義は、湘南藤沢キャンパスの3学部3学部の塾生が受講できるように配慮して、経済学並びに看護学・医学に関して十分な予備知識がないことを前提に進める。

看護理論と実践 2単位(秋学期)

教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

1. 看護理論の発展について学ぶ。
2. 看護実践に活用できる理論について学ぶ。

ヘルスプロモーション実践 1単位(秋学期特定期間集中)

専任講師 石川 志麻
教授 金子 仁子
助教(有期) 佐藤 美樹
助教(有期) 吹田 晋

全体オリエンテーション	4月6日(木)	11:45~12:15
履修者オリエンテーション	5月26日(金)	16:30~19:40
実習オリエンテーション	7月31日(月)	9:25~12:40(203・204)
実習	8月1日(火)・8月2日(水)	
実習まとめの会	8月3日(木)	9:25~12:40(201・202)

授業の一般目標:

人々の健康を増進していくヘルスプロモーションの考え方に基づき、クライアントの健康状態をより良い方向にし、豊かな人生を獲得するには何が必要なのかを考えます。
具体的には、実習施設で障がい者に出会い、日常生活を共に過ごすことにより、その方たちの特徴、施設の役割を理解し、その方たちが健康で自分らしくよりよく生きるための生活のあり方や今自分たちに何ができるかを考えます。

プライマリーヘルスケアと国際保健 I (開発援助論) 2単位(秋学期)

准教授 小池 智子
専任講師 藤屋 リカ
講師 神馬 征峰

非常勤講師・ゲストスピーカーの講義等は、補講日に実施することがあります。ゲストスピーカーの日程は現在調整中で、仮日程になります。

授業の一般目標:

「すべての人に健康を」を目指すPrimary Health Care (PHC)の思想と変遷を学び、健康に密接に関わる文化、社会、経済など様々な外的要因を含め、健康について包括的にかつ国際的な視点から考える。個人の問題としての健康や疾病だけではなく、構造的な社会問題から健康が脅かされている状況について理解し、その中で生きる人々の知恵や国際社会の取り組みや援助の実際について学ぶ。開発は誰のためにあるものかという問いを持ちながら、保健分野における援助のあり方について学び、国際保健分野での実践者からの事例から学び、事例を基に議論を行い、保健分野における開発援助の在り方について考察を深めていく。

ヘルスケア情報学 2単位(秋学期)

准教授 宮川 祥子
講師 本間 聡起

授業の一般目標:

健康や医療に関する情報が氾濫している中で、情報の質を正しく評価し、その中から適切なものを取捨選択し、日頃の健康増進や医療活動に活用していく能力(情報リテラシー)は、ますます重要になっています。この授業では、情報リテラシーについて、それに関する情報のセキュリティの問題も交えながら講義を進めていきます。健康に関して、よりよい意思決定をするためには、誰が、どのタイミングでどのような情報を得ることが必要なのか。そして、電子カルテやインターネットなどの情報システムは、患者や医療従事者の意思決定をどのように支援できるのかについて、現代社会において実際に課題となっている事例を用いながら学びます。

看護医療の英語 II 2単位(秋学期)

准教授 バティ, アーロン O.

授業の一般目標:

この授業では、食糧、食糧生産、食品産業が人間の健康に及ぼす影響について重点を置く。最近の英語ドキュメンタリー映画に基づき、これらの話題について考える。学生は自分の食べ物はどこから来るか、その食べ物は健康にどんな役割を果たすかをさらに深く理解する。

授業での活動は以下である:

- 1) ドキュメンタリー映画を観る
- 2) 語彙や理解の活動
- 3) グループ・ディスカッション
- 4) プロジェクト・プレゼンテーション

性と生殖における健康と権利 2単位(秋学期)

教授 近藤 好枝
准教授 辻 恵子
専任講師 藤屋 リカ
専任講師(有期) 原田 通予

秋学期後半に2コマ連続で開講いたします。
(詳細は2回目の講義で説明します)

授業の一般目標:

人間の生殖システムやその機能と活動を理解し、それを基盤に性、生殖に関する健康を獲得・維持するための方法・技術・社会資源について学習する。とりわけ、女性の健康と安全な母性を中心として母子健康・家族計画および生殖に関する権利、法律について学習する。

1.人間のセクシュアリティとリプロダクションにかかわる健康や権利についての知識や考えを拓げ、深めることを目指す。

2.人間のセクシュアリティについて、教育、医療、社会の現状と課題という側面から学習する。
3.生殖補助医療の現状と課題、産む権利・産まない権利、人工妊娠中絶、ジェンダーフリーの思想とジェンダー尊重の思想などについて多方面から学び、リプロダクティブヘルス・ライツの確立にむけて今日的な課題を明らかにし、自分自身の価値観や考えについて考察する。

プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅱ(海外研修) 2単位 (秋学期)

准教授 小池 智子
専任講師 藤屋 リカ
助教(有期・医学部) 上養 義典

授業の一般目標:

ラオス国をフィールドにJICA、WHO等の保健医療支援活動や現地医療機関等の見学を行う他、教育や環境領域のNGO活動にも触れ、包括的なプライマリヘルスケア支援活動の実際を学びます。また、農村では、住民とともに2日を過ごし、その生活や習慣・文化をとおして健康課題について考えるフィールドワークを行います。さらに、ラオス保健科学大学等の医療系学生と交流し、医療系人材の開発についても学びます。

これらの活動をとおして、ラオス国のヘルスケア領域の課題、ヘルスケア政策、人々の生活と文化への理解を深め、持続可能性のある国際援助の方策や、効果的な保健医療チーム・アプローチについて考察することを目的としています。

法学基礎Ⅰ(法律理解への基礎知識) 2単位(春学期)

名誉教授 霞 信彦

授業の一般目標:

今日私たちの日々の生活は、「法」とのかかわりなしに成り立つものではない。看護職として、高度な専門知識を駆使し医療の領域で活動することが期待されている諸君たちにも、それは避けて通ることのできない現実であろう。そこで「法学基礎Ⅰ」および「法学基礎Ⅱ」は、医療との関わり合いを視野に入れつつ、「法」をめぐるもともと基礎的な事柄について論じ、「法」に対する基本的な知見を広げることが目的として開講される。「法学基礎Ⅰ」では、まず現行法令集である「六法」の利用方法、法の世界に特有な言語、法律格言などを紹介することを通じ法の世界への第一歩を踏み出してもらいたいと考えている。併せてわが国の司法制度の概要を講じ、法運用の実態への理解を深めるための情報を伝えるつもりである。

法学基礎Ⅱ(法律理解への実践知識) 2単位(秋学期)

名誉教授 霞 信彦

授業の一般目標:

本講義は、「法学基礎Ⅰ」に連続し、わが国の「法」を理解するためにどうしても知っておかなければならない、最も基礎的かつ必須の学問的知識を会得することを目的として開講される。すなわち、わが国において法とはどのような形で存在するのか、法にはいかなる種類があるのか、法を解釈し適用するとはどういうことなのか、わが国の法はいかなる歴史の変遷をたどり今日に至っているのか等の話題を取りあげ、順次述べていくつもりである。さらに、上述の説明を通じ理解を深めるなかで、医療に関わる法的問題や現実の医療関係訴訟の内容を紹介する機会をもちたいと考えている。

看護のための栄養学 2単位(春学期)

教授 鎌倉 光宏
講師 林 秀美
講師 本間 由佳子

授業の一般目標:

食物と各栄養素の意義、食生態学、食行動、食物の摂取と消化吸収、エネルギー代謝、日本人の栄養所要量、栄養の現況などに付いて学ぶ。さらに、各種の疾患と栄養の関係、特に生活習慣病と栄養の関係、食事療法についてより深く学習する。最終日には試食実習(腎臓病食を予定)を行う予定。

先端医療技術 2単位(秋学期)

教授 小林 正弘
教授 岡野 栄之
教授 河上 裕
教授 村田 満
教授 里宇 明元
准教授 榛村 重人
准教授 末岡 浩
准教授 中澤 和夫
准教授 篠田 昌宏
専任講師 添田 英津子
専任講師 和田 則仁
専任講師(有期・医学部) 岡部 圭介
講師 小黒 草太
専任講師(有期・医学部) 木村 成卓
助教(有期・医学部) 名越 慈人
医学部客員准教授 金子 剛

授業の一般目標:

最先端かつ高度な医療技術が臨床の場で数多く利用されている。これらの医療を理解することは、看護・介護の上でも重要なこととなってきている。

本科目では特に診断、治療の両面に利用される先端医療技術、診断機器の実際を学習し、それぞれの原理、機能、得られる結果、情報に関して理解を深める。

具体的には、①先端画像診断、②遺伝子診断、③遺伝子治療、④生殖医療、⑤遠隔医療、⑥カテーテル治療、⑦内視鏡下手術、⑧臓器移植、⑨人工材料、人工臓器、⑩ティッシュエンジニアリング、再生医療、⑪医療とロボットなどについて学ぶ。

看護のための生化学・生理学【学期前半】 2単位(秋学期)

教授 鎌倉 光宏
講師 渡辺 修一

10月14日(土)に補講を行なう。9月27日(水)の第2時限は休講予定。

授業の一般目標:

既習の科目で習得した知識を基に、各臓器系の異常について演習問題を中心に整理・復習を行い、理解を深めることを目的とする。

救急医学・救急看護 1単位(秋学期)

教授 小林 正弘
教授 大谷 俊郎
教授 加藤 眞三
教授 佐々木 淳一
医師 並木 淳
講師 宮武 諭

授業の一般目標:

本邦では、1年間に約2000万人の市民が、救急室(ER)を受診します。ERは、救急看護師の職場であり、救急患者にとっては医療への唯一の接点です。救急患者を救命し、QOLを維持するには、適切な(質の高い)救急医療が必要です。したがって、救急看護師には高い臨床能力、すなわち救命スキルと共に、ERで必要な知識・訓練が求められます。しかし、専門の救急看護師ではなくとも救命スキルの取得は必要であり、外来や病棟での患者さんの急変時の初期対応は看護師の役割であることを忘れてはなりません。

この授業の目標は、学生が国際標準の救急看護を理解し、実践するための基礎を作ることです。講義と実習、救命スキルとERで求められる知識を組み合わせた先駆的なプログラムを組みました。講義はケースシリーズを中心として、実習では実践的な技法が用いられます。

【教育目標(GIO)】

- (1) 救急室(ER)における、救急患者の診療を理解する。
- (2) 救急患者の疫学と救急医療体制を理解する。
- (3) プレホスピタルおよびERにおける、救命治療の方法を理解する。
- (4) プレホスピタルおよびERにおける、外傷の治療を理解する。

- (5) 環境障害、中毒など、特殊な病態の医療を理解する。
- (6) 集団災害における医師、看護師の役割を理解する。
- (7) 救急医療における看護師の役割を理解する。
- (8) 救急看護師に求められる技量を理解する。

クリニカルエンジニアリングと医療安全管理 2単位(秋学期)

教授 小林 正弘
准教授 吉田 理
専任講師 鈴木 武志
助教 松崎 陽平
専任講師(有期・医学部) 林田 健太郎
講師(職員) 平林 則行
講師(職員) 月岡 澄子

授業の一般目標:

生命維持管理装置などを対象とした医療機器の保守管理、操作、安全管理・教育などについて学習します。
併せて、リスクマネジメントの考え方、各領域における医療安全管理の実際を学びます。

保健統計学 1単位(春学期特定期間集中)

教授 鎌倉 光宏

授業の一般目標:

医療に関わる疫学・数理統計学について、1年次の必修科目「データサイエンス」で学習した基礎知識に加え、因果関係、各種疫学指標、対象人口把握、サンプリング、年齢調整法、研究デザイン、分析疫学手法、Evidence-Based Medicine 概論、医療評価手法、スクリーニング、人口動態統計、人口動態統計、生命表分析、疾病・障害統計等の項目について多数の問題演習を加えた講義・演習を行う。与えられたデータから適切な指標を導き出し、結果として対象にどのような判断を下すべきか理解を深めることを目的とする。

遺伝と医療 1単位(春学期特定期間集中)

教授 藤井 千枝子

集中講義になっています。
日程にご注意ください。

4月25日(火) 1.2時限、4月26日(水) 3.4.5時限、4月27日(木) 1.2時限

授業の一般目標:

これからの医療は、ヒトゲノムの基本知識が不可欠となります。本科目はヒトのゲノムと疾患、遺伝情報や遺伝と倫理について考える基礎を培います。さらに、疾患をもつ人、生命の連続性、多様性の意義について理解を深め、これからの看護実践に生かすことを目標とします。

家族看護学 1単位(春学期特定期間集中)

教授 永田 智子

講義は4月11日火曜日3限、4月18日火曜日3、4限、4月25日火曜日4、5限、7月20日木曜日3、4限に行います。

授業の一般目標:

家族を一つの単位としてとらえる必要性や重要性について理解を深める。家族看護を展開するために必要なアセスメントや介入について基礎的知識を習得し、家族看護実践の基本的態度を養う。

研究デザイン法 1単位(春学期特定期間集中)

准教授 増田 真也
教授 戈木クレイグヒル 滋子
講師(職員) 鈴木 有紀

授業の一般目標:

看護の発展のためには、看護の科学的根拠を明らかにし、実践に生かすための研究を積み重ねていくことが必要である。しかしながら、問題の発見、資料の収集、研究計画の作成、データの収集とその分析、考察、成果の公表といった一連のプロセスの理解なくして、適切な研究を実施したり、その成果を利用したりすることはできない。この授業では、看護研究の意義と概要について理解した上で、質的研究と量的研究の双方の研究デザインについて学ぶ。

看護と哲学 2単位(秋学期)

教授 宮脇 美保子
教授 奈良 雅俊

授業の一般目標:

看護がいかにあるべきかを吟味する拠り所となる看護哲学について理解する。

- 1) 看護実践の基盤となる哲学および理論について学ぶ。
- 2) 看護実践と哲学の関係を探索し、看護観を養う。

臨床看護実践(海外研修) 2単位(秋学期特定期間集中)

准教授 福田 紀子
専任講師 新幡 智子
助教(有期) 西名 諒平

4月のガイダンス、青田基金の説明会に必ず参加すること
旅程は8/30(水)~9/9(土)の予定

授業の一般目標:

この科目は、米国ミネソタ州にあるMayo Medical Center (Mayo Clinic) で行われる。その理念である“The patients’ needs come first.”が臨床現場でどのように実現されているのか、そこにかかわるナースに必要とされる専門的知識・技術・態度等について見学し、ナースや学生間でディスカッションし、理解を深めることを目的としている。

具体的には、米国の保健医療制度や看護の現状について事前学習を行うこと、そして実習施設であるMayo Clinicにおいてチーム医療を実践しているNurse Practitioner、退院調整ナース、フライトナースなどのスペシャリストの活動や看護部門による現任教員に関する講義の受講、そしてMayo Clinicで臨地実習を行っている米国の看護学生の実習への見学参加、Mayo Clinicの関連施設の見学を通して、米国の医療事情と日本の現状を比較しながら理解を深める。また、米国での実習後、Mayo Clinicから来日するナースの講義を受講し、実習での経験をさらに深める。

助産理論 2単位(通年特定期間集中)

教授 近藤 好枝
准教授 辻 恵子
専任講師(有期) 原田 通予
助教(有期) 藤本 久江
講師 飯岡 由紀子
講師 門間 美佳

授業の一般目標:

リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する概念を基礎に置き、女性が子どもを産み育てる過程における母子およびその家族に対する助産ケアを実践するための基本的知識の習得、及び問題解決能力の向上を目指す。まず、助産とは何か、助産師の業務と役割、責務ならびに基礎産科学(正常経過)について学習する。次に、妊娠、分娩、産褥各期の事例を通して助産診断の実際を学び、生活過程を整え正常経過へ戻す助産ケアや正常経過を促進する援助のあり方を考察し、個別性を尊重した助産ケアを導き出す。学習は、講義ならびにPBL(Problem-based Learning:問題解決型学習)、それを有効にするPSA(Problem-solving approach:問題解決型取り組み)により進める。

- 1.問題解決型学習の概要を理解できる。
- 2.PBLの理念に基づく事例学習により、妊娠・分娩・産褥期の助産診断の実際と援助のあり方を理解し、実際のケアに適用できる能力を養う。

助産技術 4単位(春学期特定期間集中)

教授	近藤 好枝
准教授	辻 恵子
専任講師(有期)	原田 通予
助教(有期)	藤本 久江
講師	長田 知恵子
講師	加納 尚美
講師	日下 剛
講師	清水 光政
講師	竹内 紀子
講師	野田 知子
講師	福澤 素子
講師	福田 貴則
講師	毛利 多恵子

授業の一般目標:

助産技術は、助産実践の前提科目であり、助産ケアの根拠となる知識と技術を修得することを目的としています。まず、妊産婦の心身の変化を診断し、異常の予防や早期発見を行いより快適にこの時期を過ごすことができるよう対象の主体性を育む援助技術を学びます。分娩期においては、分娩の開始および進行に関する診断技術、産婦にとって安全・安楽な助産技術の習得を目指します。また、新生児期においては、生理的・心理社会的状態から健康問題を診断し、成長発達を促進するケア技術、家族が子どもを迎え入れるために必要な援助技術及び指導方法を学習します。加えて、周産期における遺伝学的検査と助産ケア、障害のある子どもを引き受ける親の心理社会的問題についても考えます。

助産管理 2単位(通年特定期間集中)

教授	近藤 好枝
教授	前田 正一
専任講師(有期)	原田 通予
講師(職員)	菊地 敦子

授業の一般目標:

- 1.助産師を取り巻く社会や医療の変化、すなわち周産期医療の集約化に伴う他職種との連携、オープンシステム(セミ・オープンシステム含む)の特徴、総合・地域周産期医療センター(MFICU, NICU)における役割と課題について理解する。
 - 2.安全で自然な出産を目指す院内助産所、開業助産所それぞれの特徴、役割、法的規定、課題について学習する。
 - 3.専門職として自律して助産実践を行うために必要なマネジメント理論における多角的な視点を理解し、医療安全管理についての具体的な対策を考案できる能力を養う。
- (1)助産管理の基本を理解し、助産業務の管理及び各種助産施設の運営に必要な基礎的知識を習得する。
- (2)周産期における医療の質保障と安全管理のための基本的な理論を学び、助産師として医療事故防止のための管理のあり方を考察する。

助産実践 11単位(通年特定期間集中)

教授	近藤 好枝
准教授	辻 恵子
専任講師(有期)	原田 通予
助教(有期)	藤本 久江
講師	大島 美佐恵

授業の一般目標:

助産師選択コースの到達目標

- 1.母子保健活動の多様な実践の場において、対象の性と生殖を中心とする健康状態をアセスメントし、ケアを計画し、実施し、評価することができる。
- 2.助産師として助産の実践にあたり、技術に関する理念や概念を自分の言葉で表現し、また、振り返ることができる。
- 3.妊産婦やその家族、ライフサイクルの各期にある人々の個別性や個々の特性、家族発達過程を理解できる。
- 4.助産師として対象者に対して責任と責務を自覚する。
- 5.信頼できる正確なデータに基づいてより質の高い助産ケアの方向性を明らかにする。

- 6.産む人や女性たち自身が発信するニーズや情報を受け止め、ともにケアや支援の方向性を作り上げる必要性が理解できる。
- 7.他の専門家と有益なコンサルテーション、照会、連絡の必要性を認識し、他職種とのコミュニケーションのための能力と基本的態度を養う。
- 8.個別的、専門的な成長のために生涯学習への責任をもつ。

助産実践の目標

妊婦・産婦・褥婦および新生児のケアに必要な診断のプロセスや援助について学び、個別的な助産過程を展開する。正常な経過をたどる産婦に対して分娩介助を10例程度実践する。これを通して、助産師の役割や機能を考察する。

総合病院・パースクリニック・助産院では、分娩介助、産褥・新生児ケアを実施する。10例のうち2例程度は、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期を継続して受け持ち、家族単位のケア、連続性のある助産ケアを展開する。また、総合周産期母子医療センターのM-FICU、NICUでは、広い視野で助産を考え、実践できる能力を鍛える。

公衆衛生看護活動論 2単位(秋学期)

教授	金子 仁子
助教(有期)	佐藤 美樹
助教(有期)	吹田 晋
専任講師	石川 志麻
講師	谷本 有美子
講師	山本 妙子

授業の一般目標:

地区を対象とした看護活動について、具体的な援助方法について、地域全体を対象とした方法と、個別支援(健康診査)について理解を深めます。

地域全体の援助方法としては、PLAN→DO→SEEサイクルについて、特にPLANの過程において重要な地区診断を取り上げ演習を通して具体的な方法を学びます。地区の健康ニーズに応じたシステムづくりについても理解を深めます。

また、保健師活動の基礎的な概念である「公共性」について、今の日本の現状から学びます。

親子への支援について、保健師の実際活動を取り上げ、個別支援の事例検討から地区活動への展開のプロセスも学びます。

これらによって、地区活動の具体的な方法を理解します。

公衆衛生看護管理展開論 2単位(春学期)

教授	金子 仁子
助教(有期)	佐藤 美樹
助教(有期)	吹田 晋
専任講師	石川 志麻
講師	宇田 優子
講師	米山 奈奈子

授業の一般目標:

公衆看護活動における対象別の活動と公衆衛生看護管理について理解する。

2年生で取り上げなかった集団支援の基本であるグループ支援や、日本の保健師活動の特徴を捉えるために保健師活動の歴史を学び、対象別の精神保健、依存症、難病、感染症を、事例から生活状況を理解し、またそれらの人々を支援する施策についても概観し、保健師の支援の基本事項を学ぶ。また、公衆衛生看護管理の展開論として公衆衛生看護看護管理のあり方や健康危機管理の基本を学ぶ。

公衆衛生看護実践 I (行政看護) 4 単位
(通年特定期間集中)

教授 金子 仁子
助教(有期) 佐藤 美樹
助教(有期) 吹田 晋
専任講師 石川 志麻

全体オリエンテーション 4月4日(火) 14時10分～15時40分 (207)
実習先合同オリエンテーション 4月21日(金)
事前学習日 4月28日(金) I～V 学内演習 (203・204)
事前学習日2:5月2日(火) I～V 大学(207)・実習地区地区踏査
実習
春期 5月8日(月)～5月19日(金)
夏期 8月28日(月)～9月8日(金)

授業の一般目標:

地区活動の実際や保健サービス・家庭訪問の実際について参加・体験することから、Plan-Do-Seeサイクルについて学ぶ。
具体的には、家庭訪問に同行したり、事業参加に参加したりすることから支援の実際を学ぶとともに、実習地における地区診断を行い健康ニーズを明らかにする。地区診断結果の健康ニーズとのかねあいで健康教育を企画・実施・評価する。

公衆衛生看護実践 II (産業看護) 1 単位
(春学期特定期間集中)

専任講師 石川 志麻
教授 金子 仁子
助教(有期) 佐藤 美樹
助教(有期) 吹田 晋

全体オリエンテーション:
5月24日(水) 3・4限 203・204教室

2つのグループで実習を行う。
①水現地実習、木 学内実習、金 午前 実習のまとめ
②紫陽花:5月29日～6月2日(月～金、5日間)
③杜若:6月12日～16日(同じ)

授業の一般目標:

産業保健・産業看護活動について、実習先の企業における労働者の健康・生活状況を学ぶと共に、健康管理システムの組織の中の位置づけや健康管理の状況を理解し、産業保健における看護職の役割を学ぶ。
具体的には、産業医が行う職場巡視に同行したり、保健師の行う保健指導場面や安全衛生委員会を見学する。

先端看護学 2 単位(秋学期)

教授 小松 浩子
教授 藤井 千枝子

授業の一般目標:

看護は、生命(Life)や存在(Well-Being)という人の根幹をなす科学に携わる。本科目は、先端的トピックスに焦点をあて、看護の科学および科学技術への関心を高める。本科目を通し、生命と人の尊厳を考えながら、科学的思考(Scientific Thinking)を養い、先端看護(Translation of Nursing Science)を推進するための基盤を養う。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 太田 喜久子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、高齢者の理解、老年看護にかかわるテーマを自由に設定し、研究の基礎的方法の習得や、体験学習も交えたプロジェクトの計画を立て、主体的に取り組む。
自分の関心に関わる研究計画を立てることを目指す。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 金子 仁子

授業日程については受講者の方と相談した上決めます
1回の授業は2コマで行います。そのほかの時間は自己学習にあてます。

授業の一般目標:

研究とは?や研究の方法について文献を読み概観し、自分の研究テーマをつめていく中で文献を読むことを学び、春学期中に研究計画の策定の目標とします。

具体的には、公衆衛生看護活動に関する自分の関心があるテーマを決め、それに関する文献を読み、研究の目的を定め、そのことを明らかにするための研究方法を考えます。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 鎌倉 光宏

授業の一般目標:

世界の感染症の現状の把握と動向の解析、効果的な予防対策の考察を行う。文献収集・資料解析を主とする。年度内に実施される留学生等を対象とした英語講義、国内学会、講習会の一部、国内開催の国際会議などに出席できる可能性がある。対象疾患は、HIV/AIDS、SARS、結核、インフルエンザ等。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 小池 智子

授業の一般目標:

本プロジェクトは、国内外の看護・医療、保健、福祉分野における様々なマネジメントおよび政策上の課題を対象としています。プロジェクトIでは、各人お研究課題(Research Question)を明確にして絞込み、さらに、これを解決する手がかりを探索するための研究・調査手法、分析手法を学び、自分の研究課題解決に適切な手法を選択できることを目標としています。

前半では、各人のテーマ領域の研究論文などの文献レビューを行い、研究課題(Research Question)を明確にしていきます。後半は、調査に・研究の具体的な実践方法を学び、各人のテーマに適した研究デザインを模索し、夏季・秋学期の研究活動のための研究計画書の作成、調査票のデザインを目指します。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 近藤 好枝

授業の一般目標:

- 1 保健医療システムにおけるNICUの機能・役割を理解する。
- 2 NICUに入院中のハイリスク新生児(低出生体重児、先天性疾患など1名以上)の看護を見学し、出生までの経過、看護上の問題、ケア内容、母親・家族の状況を把握し、次項について考察できる。
 - 1) 妊娠中の母体・胎児管理における看護師の役割は何か。
 - 2) 東京都の周産期医療体制の現状と課題は何か。
MF-ICU, NICU搬送までの経過(事例を通して考える)
 - 3) 予期しない出来事に直面した母親と家族の反応(感情・認識)及びニーズは何か。
 - 4) 危機に直面している母親と家族に対してどのような介入が可能か。
 - 5) 新生児個別的発達ケアと評価プログラム(Newborn individualized developmental care and assessment program、以下、NIDCAP)は、子どもの発達にどのような影響をもたらしたか。また、NIDCAPの導入は、看護師にどのような変化をもたらしたか。
3. 周産期における遺伝学的検査と助産ケア、障害のある子どもを引き受ける親の心理社会的問題について考える。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

ゼミ形式の少人数授業を通して、研究の立案と実行について学ぶと共に、物事を論理的に考える力や自分の考えを明確に伝える力を身につける

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 辻 恵子

授業の一般目標:

母性看護学/助産学、遺伝看護学および周辺領域の現象を客観的にとらえ、そこに存在する疑問や課題を明確化するとともに、それを科学的に探究し表現する基礎的な能力を養う。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 永田 智子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究の基礎的方法の習得も交えて計画・実践し、これまでの学習のまとめを行なう。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

専任講師 (有期) 原田 通予

他の授業と調整しながら行います。
予定はガイダンスでお知らせいたします。

授業の一般目標:

母性看護学/助産学分野で自分の関心があるテーマを決定し、文献検討を行い、科学的に探究する能力を養うことを目的とする。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 福井 里佳

授業の一般目標:

1. これまでの学習経験をふり返り、自分の関心テーマに沿って取り組む課題を明確にするための文献検討及び研究方法について学習する。
2. ゼミ形式の授業において、プレゼンテーションや対話を通して学ぶ力を養う。
3. 取り組む課題や疑問に関して、研究(実践)計画書を作成する。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 藤井 千枝子

授業の一般目標:

自然科学研究について関心を深め、ある問題について幅広く知識を得て、焦点化し、問題に対する分析方法について検討する。研究の視座を持つことで、客観的な事実を得て、それを図表などで表現する。さらに、考察をし、解決方法の一案を講じる過程を知る。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

専任講師 藤屋 リカ

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究の基礎的方法の習得も交えて計画・実践し、これまでの学習のまとめを行なう。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

心理学(特に健康心理学、社会心理学、コミュニティ心理学、リスク心理学)に関する諸テーマの中から、学生が選んだ研究課題について、まずは基本的な文献を、教員も交えて購読する。それを材料として討議を重ね、研究テーマを絞っていく。
短い時間の中ではあるが結論は急がず、学生が本当に何を知りたいのか、そのためにどうするのが最も良いのかを共に探っていく。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 宮川 祥子

授業の一般目標:

ヘルスケア情報学に関連する分野で、それぞれ関心のあるテーマを選び、論文としてまとめるための文献調査・実証研究等の計画を立案する。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究の基礎的方法の習得も交えて計画・実践し、これまでの学習のまとめを行なう。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 山内 慶太

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護医療領域等の中からテーマを自由に設定し、研究の基礎的方法の習得も交えて計画・実践し、これまでの学習のまとめを行なう。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 大谷 俊郎

授業の一般目標:

自分の興味に応じて、①研究テーマを設定し、②先行研究の検索を行い、③研究計画を立案し、④実験、アンケート、インタビュー、文献レビュー等を実践して、⑤科学研究の基礎的方法を習得する事を目標にします。

研究の手法として動作解析を行う場合には、実験は主として日吉のスポーツ医学研究センターで行っています。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 加藤 眞三

開講日は受講生の他の授業との関係で日程を決定する。

授業の一般目標:

慢性病および終末期の病気をもつ患者に対しての、情報提供や患者教育、スピリチュアルケアについて、患者と医療者の対話や関係性のあり方について、それぞれの学生が自分の興味を持つテーマを三井だし、調査および発表をし、少人数で討議することにより、知識と理解を深める。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 小林 正弘

授業の一般目標:

コンピュータ支援医療・看護に関する研究全般が対象です。
内容・形式は自由です。
自発的な研究をサポートします。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 小松 浩子

准教授 矢ヶ崎 香

授業の一般目標:

慢性・長期的な健康課題をもつ患者、当事者の視点から、看護ケアを共に創るために文献検討、フィールドワークを行います。例えば、乳がんサポートグループ、透析患者のそら豆塾、慢性病のピアサポート、慢性疾患患者の災害看護など、活動を通して当事者とパートナーシップを結ぶ、相互交流をおこしてコミュニティ全体の健康レベルを底上げする等、新たな概念や理論を学びます。

また、看護研究の基盤となる文献検討の方法や研究のプロセス(方法)を学習します。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 小山 友里江

専任講師 新幡 智子

授業の一般目標:

プロジェクト I

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 戈木クレイグヒル 滋子

授業の一般目標:

研究の基礎となる考え方、方法を学んだうえで、質的データを収集し、分析する方法を学ぶ。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

専任講師 添田 英津子

授業の一般目標:

履修者とのラーニングコントラクトによる

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

教授 野末 聖香

授業の一般目標:

精神看護に関わる現象について、科学的、系統的に探求することを通して、研究的思考や態度を養う。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

専任講師 朴 順禮

授業の一般目標:

興味ある研究論文についてクリティークを行ない、探究したいテーマに沿って研究計画書を立案する。

プロジェクト I (基礎) 1 単位(春学期特定期間集中)

准教授 福田 紀子

授業の一般目標:

精神看護に関わる現象について、科学的、系統的に探求することを通して、研究的思考や態度を養う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

教授 太田 喜久子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期特定期間集中)

教授 金子 仁子

授業は、プロジェクトメンバー全員が集合して行う場合と、担当する教員と検討する場合があります。集合して授業を実施する場合の授業日程については初回に検討します。初回については受講者の方にメールで連絡します。

授業の一般目標:

秋学期では主に質的データの分析方法を学び、実際にデータを分析検討することにより看護専門職として研究的素養を養うことを目的とする。

春学期に提出した研究計画について、さらに文献等を検討し、見直し修正をおこない、実際に実施可能で研究意義が認められる研究計画とする。

修正された研究計画に基づき、フィールドにおいて、インタビュー等を行いデータを収集し、分析検討する。これらの結果の内容を考察し、研究報告書をまとめる。

研究報告書に基づき研究内容についての発表を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

教授 鎌倉 光宏

授業の一般目標:

プロジェクト I に引き続き、世界の感染症の現状の把握と動向の解析、効果的な予防対策の考察を行う。文献収集・資料解析を主とする。対象疾患は、HIV/AIDS、SARS、結核、インフルエンザ等。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

准教授 小池 智子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

教授 近藤 好枝

授業の一般目標:

周産期医療の進歩により、超低出生体重児の救命率は飛躍的に向上しています。早産児は、出生を契機に新しい環境への適応を目指すのが、新生児集中治療室(NICU)の環境は刺激に満ち、未熟な早産児は疲労困憊している。ここでは、脆弱な超低出生体重児の生理的、

心理社会的特徴を理解すると共にその感受性のレベルに適合した環境やケアのあり方について考える。

プロジェクト II では、研究論文の批判的吟味、研究計画の立案、データ収集、分析、結果とその解釈、論文作成へと進む。結果が重要であるの言うまでもないが、対象と場の特殊性から計画立案までのプロセスをより重視する。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

教授 杉本 なおみ

授業の一般目標:

ゼミ形式の少人数授業を通して、研究の立案と実行について学ぶと共に、物事を論理的に考える力や自分の考えを明確に伝える力を身につける

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期特定期間集中)

准教授 辻 恵子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期特定期間集中)

専任講師(有期) 原田 通予

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期特定期間集中)

准教授 福井 里佳

授業の一般目標:

1. プロジェクト I で作成した各自の研究計画書(または実践計画書)に沿って、研究疑問を明らかにしたり、課題を解決するための実践を行う。

2. 研究や実践のプロセス、得られた知見、考察したことを論文にまとめ、論理的に記述する力を養う。

3. 一連のプロジェクトへの取り組みを通して自己の看護観を深め、今後の課題を明確にする。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

教授 藤井 千枝子

授業の一般目標:

研究に取り組むことで、現在明らかになっていない事実であっても、真として考えられることを深め、重要な事実を示唆し、提言する意義を経験する。健康という大きなテーマに対し、どのような研究を重ねるか、どのようなアプローチがあるのかを考え、看護実践を通して、探究しつづける重要性を理解する。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期特定期間集中)

専任講師 藤屋 リカ

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクト II (応用) 2 単位(秋学期)

准教授 増田 真也

授業の一般目標:

プロジェクト I での検討から各自が設定した研究テーマ。II では具体的な研究計画を立て、研究論文の作成を進める。限られた時間内で十分な成果を得ることは難しいかもしれないが、結果を出すことよりはそこに至るまでのプロセスを大事にする。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

准教授 宮川 祥子

授業の一般目標:

3Dプリンターなどのデジタルファブリケーション機器を使ったケアのもの作りに関連する研究を行う。基本的なデジタルファブリケーションの技法を学んだ上で、看護の現場とももの作りをつなげる方法論や、作成したケア用品の評価などをテーマに研究を行う。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 宮脇 美保子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 山内 慶太

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 大谷 俊郎

授業の一般目標:

研究の基礎的方法を習得するために、①プロジェクト1で作成した研究計画を実践し、②結果を分析し、③考察する過程を通して科学論文の作成方法を体験する。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期)

教授 加藤 眞三

開講日は受講生の他の授業との関係で日程を決めます。

授業の一般目標:

慢性期および終末期の病気をもつ患者に対しての、情報提供や患者教育、スピリチュアルケアについて、学生が自分の興味を持てる対象を見つけて、それについて調査、発表し、少人数で討議することにより知識を広めると同時に理解を深める。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期)

教授 小林 正弘

授業の一般目標:

コンピュータ支援医療・看護に関する研究全般が対象です。内容・形式は自由です。自発的な研究をサポートします。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 小松 浩子

准教授 矢ヶ崎 香

授業の一般目標:

慢性・長期的な健康課題をもつ患者、当事者の視点から、看護ケアを共に創るためにプロジェクトⅡでは、プロジェクトⅠに引き続き文献検討、フィールドワークの継続とそのプロセスのまとめと評価、あるいはプロジェクトⅠの文献検討、フィールドワークの学びを基盤に研究計画書の作成、データ収集、分析、評価を行います。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期)

准教授 小山 友里江

専任講師 新幡 智子

授業の一般目標:

プロジェクトⅡ

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 戈木クレイグヒル 滋子

授業の一般目標:

春学期に「プロジェクトⅠ」で学んだ研究の基礎を基に、各学生が関心をもつ研究課題について研究計画書を作成する。さらに、計画に沿ってデータ収集と分析をおこなう。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

専任講師 添田 英津子

授業の一般目標:

ラーニングコントラクトによる

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 野末 聖香

授業の一般目標:

精神看護にかかわる現象を、科学的、系統的に探求することを通して、研究的思考や態度を養う。プロジェクトⅡでは、プロジェクトⅠでまとめた文献レビューをもとに、自分の関心テーマについて研究課題を明確にし、研究計画を立てて研究を実施する。その成果についてプレゼンテーションを行い、結果と課題を明確にし論文としてまとめる。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

専任講師 朴 順禮

授業の一般目標:

春学期にまとめた研究計画書をもとに研究を実施し、得られたデータを分析し、論文を執筆する。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

准教授 福田 紀子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。

プロジェクトⅡ(応用) 2単位(秋学期特定期間集中)

教授 永田 智子

授業の一般目標:

自分の将来の進路や興味に応じて、看護領域等の中からテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から実施、まとめの過程を通して、これまでの学習の集大成を行う。